

1. 基本情報

評価対象年度 (令和元年度)

施策コード	414		施策名	公園の整備			
将来像	4	豊かな自然と調和した住みややすく活気あるまち(「基盤づくり」の分野)					
まちづくりの基本目標	41	快適で住みやすいまち					
担当部	都市整備部		担当課	水と緑の環境課		担当係	緑と公園係
担当者	南澤 志公		役職	都市整備部長		内線	360
関係課	総務課						

2. 施策の方向

10年後の姿	市民のニーズに対応した特色ある公園が整備され、多くの市民が快適に利用しています。また、地域の公園の維持管理に市民が主体的に関わっています。					
施策の方向性	1	多様化する市民ニーズに対応する公園の整備を進めていきます				
	2	地域から親しまれる市民の手による公園づくりを推進します				

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

No.	事務事業名	実行計画	施策の方向性	担当課	平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度予算
0102010707	施設等営繕事業		1	総務課	14,220	8,807	12,610
0108030502	公園管理事業	対象	1,2	水と緑の環境課	83,012	76,991	86,996
0108030503	公園整備事業	対象	1,2	水と緑の環境課	34,308	22,125	
0108030510	柳瀬川回廊事業	対象	1	水と緑の環境課	7,619	7,636	15,200
総事業費(施策の合計)					139,159	115,559	114,806

4. まちづくり指標

指標情報				平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和4年度	令和7年度	
①	名称	市民1人当たりの公園面積		目標値	3.22	3.22	3.22	3.63	5.00
	説明	単位	m	実績値	3.36	3.37			
	抽出方法	公園等の面積の人口割り		達成率	104.3%	104.7%			
②	名称	市民による公園の自主管理の取り組み数		目標値	5	5	5	5	10
	説明	単位	数	実績値	0	2			
	抽出方法	地域住民による清掃活動など		達成率	0.0%	40.0%			
③	名称	身近にある公園は憩いの空間になっていると思う人の割合		目標値	—	—	40.0	40.0	45.0
	説明	単位	%	実績値	—	38.8(※)			
	抽出方法	市政世論調査(平成29、令和2、5、8年度実施)		達成率	—	—			

※平成29年度実績値を記載

5. 評価(令和元年度実績に対する)

評価基準	評価※	評価理由
投入財源・成果 (「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」に対する評価)	総合評価 (成果、投入財源等を総合的に評価)	維持 構成事業の状況は、全ての事業が施策の方向性の1と2の目標達成の手段として寄与しており、「10年後の姿」を実現するために適当な事務事業が展開されている。 現在、市は、市民のニーズに対応した公園整備の取組みとして、(仮称)花のある公園整備事業を推進している。令和元年度には、ワークショップを通じて市民の皆さんからいただいた意見をもとに基本計画を策定し、コンセプトや配置計画、公園活用の望まれる姿を描いた。今年度は、実施設計を行うとともに、維持管理や利用のルールとしくみづくりを市民の皆さんと検討することとしている。 また、清瀬市内には都立公園のような大規模な公園がないが、柳瀬川流域の台田運動公園や金山緑地公園、金山緑地公園と一団の区域に整備された金山調節池、清瀬せせらぎ公園、さらに、それらをつなぐ空堀川から柳瀬川に設置された通路とその周辺の自然環境が一体的に市民に親しまれている。今後、清瀬橋付近における東京都による河川改修の完了に合わせた市による(仮称)親水公園を整備によって、このエリアの更なる魅力向上が期待できる。

※順調「10年後の姿」達成に向け、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している
維持「10年後の姿」達成に向け、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある
停滞「10年後の姿」達成に向け、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

外部要因	状況	外部要因に対する評価	評価理由
市民ニーズの状況	面積の広い大きな公園整備のニーズがあり、多くの市民が利用できる新たな整備が必要となっている。ウォーキング、遊具の充実、カフェレストランの設置要望がある。	3. 施策の必要性を高める	市が管理する公園のほとんどが宅地開発時に整備された小さな公園が多く、一定年数を経過すると利用されない公園と なってしまっている。大きな公園の整備を後押しするものとなっている。
将来人口の推移	合計特殊出生率が低い。	3. 施策の必要性を高める	人口ビジョンで掲げる「20～30代の結婚・出産・子育ての希望を叶えるまちづくり」を進めるため、清瀬の自然豊かなみどりを活かした公園整備が求められる。
他自治体との比較	近隣市には、比較的規模の大きな都立公園などが整備されている。さらに、近年は防災機能をもたせた公園が多く整備されている。	3. 施策の必要性を高める	当市においても、規模の大きな公園整備の声が多く、公園整備を検討していく必要がある。また、災害時の避難場所にもなるなど、オープンスペースの活用についても検討する必要がある。
民間企業・NPO・市民の動向	コミュニティはぐくみ円卓会議や自主防災組織、地域包括ケアシステムなど、自治会以外で市民同士のコミュニティ形成を促進する動きが活発になっている。	1. 施策遂行に役立つ・有利	現在のコミュニティ形成の動きは、今後の公園の自主管理に繋がる可能性がある。

7. 施策を進める上での課題

①	施策を進める上での課題	子育てしやすいまちづくり、高齢者にやさしいまちづくりを目指すためにも、規模の大きな公園を整備することが必要である。		
	関連する事務事業名	公園管理事業	公園整備事業	柳瀬川回廊事業
	現在の取組状況	(仮称)花のある公園整備事業に向けて実施設計とプレパーク事業を行っている。また、清瀬せせらぎ公園の用地拡大、(仮称)「親水公園」の整備の前提となる東京都による基盤整備が令和4年1月までに完了する見込みであり、市は東京都や清瀬橋付近柳瀬川整備懇談会と連携して、(仮称)「親水公園」の整備に向けた調整を図っている。		
令和3年度以降の取組	(仮称)花のある公園整備工事を実施し令和4年に公園開園を目指すとともに、プレパーク事業を継続し公園を核としたコミュニティの形成を図る。清瀬橋付近の仮称「親水公園」の整備については東京都の基盤整備後となるため、令和4年度以降整備等の予算化を行う。			
②	施策を進める上での課題	規模の小さな公園等の中にはあまり利用されていない公園がある。		
	関連する事務事業名	公園管理事業	公園整備事業	
	現在の取組状況	利用頻度が極めて低い公園については、近隣住民や自治会等の同意を求め、用地の売却や自主管理など活用方法の検討をしたが、合意形成できなかった。		
令和3年度以降の取組	公園の利活用、維持管理について、住民との合意形成を図りながら、利活用方法を検討する必要がある。公園内の樹木については、越境や落ち葉、害虫の発生などの管理上の問題があることから、中低木へ移行など、地域住民が公園の維持管理に関わりやすいようにする。			
③	施策を進める上での課題	宅地開発に伴い整備された小規模公園が有効に活用されなくなる場合がある。これらの公園は今後も増加することが想定される。維持管理が増えていくと管理が難しくなる。		
	関連する事務事業名	都市計画推進事業	公園管理事業	公園整備事業
	現在の取組状況	住環境の整備に関する条例施行規則を見直し、公園の整備基準を明確にした。		
令和3年度以降の取組	改正規則の運用状況を検証の上、さらに必要な見直しを図り、適切な公園整備を誘導する(必要以上の小規模公園の整備抑制とともに、大規模公園の整備・維持に要する財源を確保する)。			